

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターれいんぼ～(保育所等訪問支援)		
○保護者評価実施期間	令和7年2月3日		～ 令和7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	225	(回答者数) 91
○従業者評価実施期間	令和7年2月3日		～ 令和7年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○訪問先施設評価実施期間	令和7年2月3日		～ 令和7年2月28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	80	(回答数) 47
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高い知識と技術を用いて、支援方法の提案を行っています。	お客様のアセスメントを丁寧に行い、ニーズに沿った支援方法の提案を行うようにしています。 施設先の先生方の困り感に寄り添いながら、実施可能な支援方法を提案しています。	今後も引き続き、PDCAサイクルを意識して計画案の見直しを行い、お客様とご家族、施設様との共通認識を図りながら支援していきます。
2	児童発達支援センターれいんぼ～で実際に実施している療育内容を踏まえて、より効果的な支援方法の提案を行っています。	れいんぼ～で使用している支援ツールを用いて、使用方法をお伝えするようにしています。	支援ツールの利用状況を確認し、施設に合った形で支援が成立するように心がけていきます。
3	お客様の適応状況を確認しながら支援を行っています。	Vineland、感覚プロファイル等を用いたフォーマルアセスメント、行動観察等のインフォーマルアセスメントの両方を行っています。	お客様の変化に合わせてアセスメントを随時行っています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用希望者が多く、すべてのご希望に沿う形での訪問支援の実施が難しいことがあります。	訪問支援員の数に対して契約者が多いことが一つの原因になっています。	訪問支援の終了についての設定を行うなど、終結に向けての取り組みを検討していくことにより、契約者数を制限していくことも必要になると思われます。
2	訪問先との調整が難しいことがあり、訪問回数が少なくなることがある。	保育所等訪問支援においては訪問先の先生とのカンファレンスが重要であると考えているため、観察+カンファレンスの時間調整が難しいことがあります。	利用者、保護者、訪問先のニーズを聞きながら、柔軟な対応について検討をしています。